資料２

地域医療構想の取組・検討状況の確認について

１　経　過

根室区域地域医療構想については、平成 28 年 4 月 15 日に開催した圏域調整会議において承認を受け、以後、毎年度末の会議において、推進シートの更新により進行管理を行うほか、重点課題として設定し、具体的な取組等について検討を進めています。

令和３年３月２２日　根室保健医療福祉圏域連携推進会議（書面開催）において地域医療構想推進シートの内容について協議し、「地域全体での医療従事者確保対策」「病床の医療機能を急性期から回復期・慢性期へ転換を図る」ことを重点課題として、今後も協議・検討を進めていくことが決定されました。

２　取組・検討状況について

２０２５年に必要病床数と見込み病床数の比較において、根室地域については全体数として過不足はないが、回復期が２３６床不足、慢性期が３４床不足、急性期が２７０床過剰となっています。

病床機能については、病棟が担う機能の主たるものを選択して報告することとなっているため、実際の病棟には様々な病期の患者が入院しているとも考えられますが、高度急性期、回復期の医療機能の一部については、釧路圏域に依存している状況もあります。

回復期、慢性期の病床は、できるだけ身近な地域で確保することが望ましいことから、圏域内での必要な医療の確保について引き続き検討する必要があります。

また、病床の確保のためには医療従事者等の確保が重要ですが、根室圏域においては、医療従事者が慢性的に不足している状況にあり、その確保と定着も喫緊の課題となっています。

３　令和３年度の取組

医療従事者等確保のために、釧路圏域との連携体制の構築に留意しつつ、地域医療介護総合確保基金を有効に活用し、病床機能の分化及び連携のための仕組み作りや施設・設備等に対する支援を行ってきました。

また、「地域全体での医療従事者の確保対策」事業として、本年 6 月に「看護師を目指す高校生のための専門校合同説明会」を実施しました。新型コロナウイルス感染症対策のためＷＥＢ開催となりましたが、多くの関係機関が参加し有意義な事業となりました。

さらに、管内の各医療機関においては、地域包括ケア病床の増床や病床利用率の増加、休床病床の稼働等により、必要病床の確保に向けて善処しているところです。

新型コロナウイルス感染症の影響で、各医療機関においては未曾有の事態にあり、十分な協議が難しい状況にありましたが、今後は感染症への対応も考慮しながら、各医療機関が果たすべき役割、維持すべき機能、再編が可能な医療機能等を検証し、地域協議を重ねていく必要があります。